

OUTLINE 2026

Mie University Graduate School of Medicine / Faculty of Medicine and Mie University Hospital Outline

三重大学大学院 医学系研究科・医学部

三重大学医学部附属病院

概要 2026



O U T L I N E 2 0 2 6



三重大学シンボルマーク



三重大学病院シンボルマーク



三重大学病院キャラクター
ミーベとミッビ



基本理念

Mission and Core Principles



三重大学医学部

基本理念

確固たる使命感と倫理観をもつ医療人を育成し、
豊かな創造力と研究能力を養い、
人類の健康と福祉の向上につとめ、地域および国際社会に貢献する。



三重大学医学部附属病院

基本理念

本院は、信頼と安心が得られる地域医療の拠点として、
未来を拓く診療・研究を推進し、
人間性豊かな優れた医療人を育成する。

基本方針

- 地域の拠点病院として、安全で質の高い先進的な医療を提供します。
- 臨床研修機関として、次代の担い手となる人間性豊かな人材を育成します。
- 新しい医療を目指す臨床研究を推進し、社会に貢献します。
- 医療・医育機関との連携・支援を推進し、地域医療の発展に尽くします。
- 疾病の予防を目指した教育・研究を推進します。
- 上記の基本方針を推進するために、健全で成長性のある病院経営を行います。



医学教育分野別評価
適合認定証



公益財団法人 日本医療
機能評価機構認定証



がんゲノム医療拠点病院
指定書



小児がん
拠点病院指定書



特定行為研修
指定研修機関指定証

Contents

基本理念	01
ご挨拶	02
沿革	04
組織図	06

職員・学生について

役職員	08
・大学院医学系研究科・医学部	
・医学部附属病院	
職員現員	11
歴代研究科長等	11
学生	12
・医学部	
・大学院医学系研究科	

大学院医学系研究科・医学部について

図書及び雑誌	14
国際交流	14
解剖体数	15
科学研究費助成事業採択状況	15
外部資金受入状況	15

医学部附属病院について

病院実績	16
診療等実績	18
臨床研究開発センター	20
医療機関等の指定状況等	21
病院各階案内図	26
敷地及び建物面積	28
建物配置図	29
所在地・アクセス	30

ご挨拶

Greetings

三重大学大学院医学系研究科・医学部 医学系研究科長・医学部長 ご挨拶

2026年4月1日より、医学系研究科長・医学部長を拝命いたしました。三重大学医学部の沿革としましては、1944年4月に前身の三重県立医学専門学校が開学され、地域医療に貢献する人材育成と先端的な医学研究を進める拠点として発展を遂げ、80年が経過しました。明治時代の三重県師範学校設立を端緒とし、1943年に三重県立医学専門学校が設立され、翌1944年4月15日に第1回の入学式が挙行されました。1947年には三重県立医科大学が設置され、1952年に三重県立大学の一部として医学部が開設されました。その後、1972年に国立へ移管され、三重大学医学部となりました。1997年には看護学科が設置され、現在の学部構成が整っています。三重大学医学部の基本理念である「確固たる使命感と倫理観をもつ医療人を育成し、豊かな想像力と研究能力を養い、人類の健康と福祉の向上に努め、地域および国際社会に貢献する。」を掲げ、医学科は三重県における唯一の医師養成機関であり、看護学科は三重県における看護師、助産師、保健師養成の高等教育機関として、附属病院は高度先進医療や臨床研究の拠点であるとともに医学科、看護学科学生教育病院として、その役割を果たしています。

挑戦：地方大学としての「独創性」を世界へ

このように歴史ある伝統を築いてきた本学ですが、現在、我々を取り巻く環境はかつてない厳しい状況の中にあります。国立大学法人化後22年、第4期中期目標期間という重要な節目において、益々大学の独立性、独創性が問われる時代となっています。さらに、国立大学を取り巻く環境は運営費の削減や物価高騰など極めて厳しい局面にあります。この難局において、本学が真に必要なとされる大学であり続けるためには、「独自性」と「独創性」を磨き上げることが不可欠です。三重という豊かなフィールドから得られる知見を普遍的な価値へと昇華させ、世界に通ずる研究・教育拠点としての地位を確立することこそが、私たちの挑戦です。四つの重点目標として(1)入試改革と次世代研究者の育成 総合型選抜を軸とした入試改革により、高い

持つ多様な人材を迎え入れます。また、大学院生の充足と学位取得率の向上を喫緊の課題とし、若手が誇りを持って研鑽を積める教育プログラムを展開します。(2)研究力の強化と大型プロジェクトの獲得 基礎と臨床が連携し、独創的な視点を大切にする研究環境を整備し、科研費採択率の向上を支援するとともに、「地域中核・特色ある研究大学」等の大型事業採択を目指し、本学の独創的な研究力を世界へ発信します。(3)戦略的経営と財政基盤の確立 大学本部と緊密に連携し、概算要求による予算獲得を戦略的に進めます。教育・研究環境の抜本的な整備と最新機器の導入を推進し、持続可能な運営基盤を強固なものにします。(4)地域創生と最先端医療の還元 地域医療の最後の砦としての責務を果たし、産業界や自治体との連携を深め、三重の地から人々の幸福に寄与する「地域創生」を牽引します。

次世代に誇れる医学部を共に

以上のように三重大学大学院医学系研究科・医学部は、教職員と学生とが丸となり、未来につながる高水準の医学教育と先端医学研究を推進するとともに、地域社会や国際社会に貢献し、医学の発展と社会の健康と幸福を向上させることを目指したいと考えています。互いを尊重し、協調しながら、難局を乗り越え、次世代に誇れる三重大学医学部を共に創り上げていきましょう。皆様の温かいご理解と多大なるお力添えを、心よりお願い申し上げます。



医学系研究科長・医学部長
山崎 英俊
Yamazaki Hidetoshi

三重大学医学部附属病院 病院長 ご挨拶

当院の歴史は、明治9(1876年)に三重県医学校兼治療所が現在の三重県警付近に設置されたことに端を発します。昭和19年(1944年)には三重県立医学専門学校の附属病院となり、昨年80周年を迎えました。昭和47年(1972年)に国立移管され、翌年現在の津市江戸橋に移転。2012年(平成24年)に新入院病棟、2015年(平成27年)に新外来棟が開院し、現在に至っています。

当院は、「信頼と安心が得られる地域医療の拠点として、未来を拓く診療・研究を推進し、人間性豊かな優れた医療人を育成」することを基本理念としています。また、(1)安全で質の高い先進的な医療の提供、(2)人間性豊かな人材の育成、(3)研究の推進と社会貢献、(4)地域医療の発展、(5) 疾病の予防を目指した教育・研究の推進、(6)健全で成長性のある病院経営を基本方針としています。県内唯一の特定機能病院として、県民の皆様が遠方の医療機関へ行かずとも国内最先端の医療を安全に受けられるよう、地域の医療の砦としての機能をさらに高めてまいります。

今後の三重県の医療を考える上で、人口動態の変化への対応は不可避です。2040年に向けて生産年齢人口は減少する一方、高齢者人口は増加し、がん罹患患者数は年間約1万4千人で推移すると予測されています。治療法別にみると、2040年には現在と比べて、低侵襲治療の普及により手術療法の需要は横ばいからやや減少する一方、放射線療法および薬物療法の需要増加が見込まれています。こうした将来ニーズに対応するため、当院では三重県における「がんセンター」としての機能強化を進め、その一環として放射線治療装置の更新を行いました。令和8年2月に稼働した即時適応型放射線治療装置は、日々の腫瘍位置の変化に応じてAIが毎回治療計画を最適化し、より高精度な放射線照射を可能とするものです。今後は、高難度手術や高度放射線療法、治療(Therapy)と診断(Diagnostics)を融合させたセラノスティクス(Theranostics)などの、次世代のがん治療体制を強化し、県内医療機関との役割分担のもと、質の高いがん医療を提供してまいります。

三重大学医学部附属病院は、都道府県がん診療連携拠点病院、小児がん拠点病院、がんゲノム医療拠点病院に指定されています。人口の高齢化に伴い、循環器疾患や脳神経疾患など複数の疾患を併せ持つがん患者さんが増加し、がん治療専門診療科のみならず病

院全体の診療科による総合的な医療提供力が問われています。令和4年に創設した「総合がん治療センター」をさらに拡充し、三重県における「がんセンター」としての総合力を強化してまいります。

県内の医師の地域偏在や診療科偏在の問題は、当院の地域貢献における最重点の課題となっています。また、当院は高度医療を提供する三次医療機関としての役割に加え、二次医療圏の「市民病院」として救急医療にも重要な役割を果たしております。令和4年には、関係病院・三重県・市町村・医師会・看護協会・薬剤師会等と「みえの未来医療会議」を組織しました。この組織による連携を基盤とし、医師の地域偏在や診療科偏在、救急医療体制の課題に取り組んでまいります。

最後に、医師の働き方改革への対応と、教育・研究機能のさらなる強化のためには、医療DXの推進を加速させることが重要です。本学では全学横断組織として「MUDX Initiative」を立ち上げ、医療DXを「構想」から「実践」へと進めてまいります。これまで三重大学では、県内医療機関間のシームレスな情報連携を目指し、地域医療介護総合確保基金を活用した「紹介・逆紹介システム」を構築してきました。このシステムを拡大し、大学病院と県内関連病院の多くが10Gb高速回線で結ばれ、光ディスクを必要としない地域画像連携ネットワークが整備されます。こうした情報基盤は、医師不足地域に派遣された若手医師の支援にも今後活用され、医師偏在の是正にも寄与するものと考えております。今後は、紹介・逆紹介システムに同意取得機能や匿名化機能などの研究支援機能を付加し、「次世代型多施設臨床研究ネットワーク」を構築することで、三重県全体の医療の質の向上とデータ駆動型臨床研究の推進を目指してまいります。

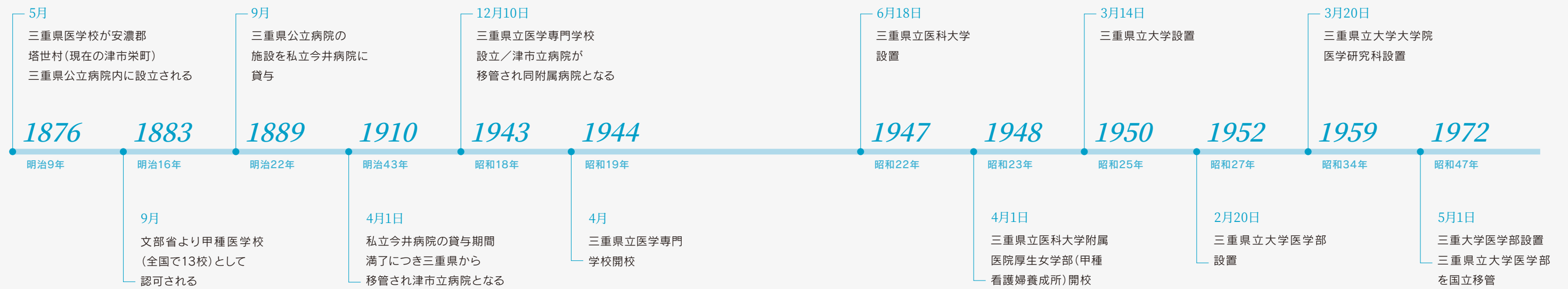
急速に変化する時代のニーズにしっかり応えられるよう、教職員一同努力してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



病院長
佐久間 肇
Sakuma Hajime

沿革

History



三重県甲種医学校(津市栄町)


※戦時中:黒塗り
医学専門学校附属病院本館
(現・県立美術館周辺)


三重県立大学 大谷町校舎



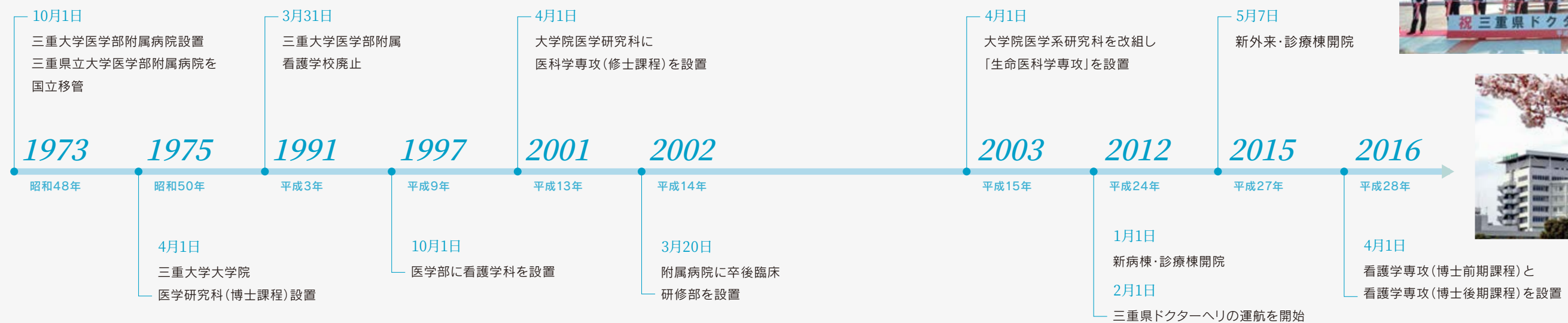
医学基礎校舎(津市栄町安濃川(塔世橋)周辺)



旧 医学部附属病院(津市江戸橋)



医学部看護学科校舎



組織図

Organization Chart



職員・学生について

About the Staff and Students

役職員 | Faculty and Adminstrative Office |

(令和8年4月1日現在)

〔 大学院医学系研究科・医学部 〕

医学系研究科長(兼)	山崎 英俊
教育研究評議会評議員(兼)	鈴木 秀謙
副研究科長(兼)	問山 裕二
副研究科長(兼)	西村 有平

医学部長(兼)	山崎 英俊
看護学専攻長(兼)	柵屋 正浩
看護学科長(兼)	柵屋 正浩

〔 大学院医学系研究科 〕

基礎医学系講座(教育研究分野)				
組織学・細胞生物学	教授	後藤 英仁	分子病態学	教授 島岡 要
発生再生医学	教授	成田 正明	感染症制御医学・分子遺伝学	教授 (西村 有平)
生化学	教授	竹本 研	免疫学	教授 安間 太郎
幹細胞発生学	教授	山崎 英俊	医動物・感染医学	教授 (西村 有平)
分子生理学	教授	坂東 泰子	環境分子医学	教授 堀 美香
修復再生病理学	教授	(成田 正明)	公衆衛生・産業医学・実地疫学	教授 神谷 元
腫瘍病理学	教授	(成田 正明)	法医法科学	教授 小谷 泰一
統合薬理学	教授	西村 有平	医学医療教育学	教授 (西村 有平)

臨床医学系講座				
循環器・腎臓内科学	教授	土肥 薫	腎泌尿器外科学	教授 井上 貴博
血液・腫瘍内科学	教授	俵 功	眼科学	教授 近藤 峰生
消化器内科学	教授	中川 勇人	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教授 柴田 博史
呼吸器内科学	教授	小林 哲	口腔・顎顔面外科学	教授 新井 直也
代謝内分泌内科学	教授	小林 哲	形成外科学	教授 成島 三長
神経病態内科学	教授	新堂 晃大	麻酔科学	教授 賀来 隆治
リウマチ膠原病内科学	教授	中島 亜矢子	救急集中治療医学	教授 鈴木 圭
家庭医療学	教授	(山崎 英俊)	リハビリテーション医学	教授 百崎 良
精神神経科学	教授	岡田 元宏	臨床薬剤学	教授 岩本 卓也
小児科学	教授	(近藤 英司)	臨床検査医学	教授 杉本 和史
皮膚科学	教授	山中 恵一	ゲノム医療学	教授 奥川 喜永
放射線医学	教授	(佐久間 肇)	総合診療医学	教授 山本 憲彦
肝胆膵・移植外科学	教授	水野 修吾	新生児学	連携教授 中藤 大輔
消化管・小児外科学	教授	問山 裕二	成育医学	連携教授 菅 秀
胸部心臓血管外科学	教授	山内 孝	健康増進・予防医療学	教授 小林 由直
乳腺外科学	教授	河口 浩介	感染制御・感染症危機管理学	教授 田辺 正樹
産科婦人科学	教授	近藤 英司		
脳神経外科学	教授	鈴木 秀謙		
運動器外科学・腫瘍集学治療学	教授	長谷川 正裕		

産学官連携講座				
臨床創薬研究学講座	教授	(近藤 峰生)	個別化がん免疫治療学講座	教授 藤原 弘
システムズ薬理学講座	教授	(井上 貴博)	個別化がん免疫治療学講座	教授 宮原 慶裕

寄附講座				
認知症医療学講座	教授	(新堂 晃大)	関節集学治療学講座	教授 (長谷川 正裕)
臨床外科感染制御学講座	教授	小林 美奈子	脊椎先端治療学講座	教授 (長谷川 正裕)
スポーツ整形外科学講座	教授	(長谷川 正裕)	地域連携血管内治療学講座	教授 加藤 惠幸
先進画像診断学講座	教授	(北川 寛也)	神経画像病態学講座	教授 伊井 裕一郎
先進がん治療学講座	教授	(北川 寛也)	上肢整形外科学講座	教授 (長谷川 正裕)
先進血液腫瘍学講座	教授	山口 素子	公衆衛生・感染症危機管理学講座	教授 (神谷 元)
亀山地域医療学講座	教授	(山本 憲彦)	脳機能解析学講座	教授 脇田 英明
〃	教授	堀端 謙	三重県移行期医療学講座	教授 (平山 雅浩)
名張地域医療学講座	教授	(山本 憲彦)	小児がん先進医療学講座	教授 平山 雅浩
三重県総合診療地域医療学講座	教授	(山本 憲彦)	乳がんDX共創学講座	教授 (河口 浩介)
脊髄末梢神経低侵襲外科学講座	教授	水野 正喜	地域連携脳血管内治療学講座	教授 當麻 直樹

〔 看護学科専攻 〕

基盤看護学	教授	福録 恵子
〃	教授	柵屋 正浩
成人・精神・在宅看護学	教授	角甲 純
〃	教授	竹内 佐智恵
〃	教授	片岡 三佳
〃	教授	岡本 双美子

〔 医学部附属病院 〕

病院長	佐久間 肇
副病院長(兼)	土肥 薫
副病院長(兼)	水野 修吾
副病院長(兼)	近藤 峰生

副病院長(兼)	俵 功
副病院長(兼)	福永 稚子
副病院長(兼)	兼兒 敏浩
副病院長(兼)	伊藤 利宏

診療部門	
総合診療科長(兼)	山本 憲彦
循環器内科長(兼)	土肥 薫
血液内科長(兼)	俵 功
消化器・肝臓内科長(兼)	中川 勇人
脳神経内科長(兼)	新堂 晃大
呼吸器内科長(兼)	小林 哲
腫瘍内科長(兼)	水野 聡朗
腎臓内科長(兼)	村田 智博
糖尿病・内分泌内科長(兼)	西濃 康太
感染症内科長(兼)	鈴木 圭
一般外科長(兼)	水野 修吾
消化管外科長(兼)	問山 裕二
肝胆膵・移植外科長(兼)	水野 修吾
心臓血管外科長(兼)	山内 孝
呼吸器外科長(兼)	川口 晃司
乳腺外科長(兼)	河口 浩介
小児外科長(兼)	小池 勇樹
整形外科長(兼)	長谷川 正裕
産科婦人科長(兼)	近藤 英司
小児科長(兼)	(佐久間 肇)
精神科神経科長(兼)	岡田 元宏
皮膚科長(兼)	山中 恵一

職員現員 | Regular Numbers of Staff | (令和8年4月1日現在)

区分		大学院医学系研究科						医学部		附属病院 (休職者及び 育児休業者を 含む)	(休職者 及び育児 休業者)	
		生命医科学 専攻 (休職者及び 育児休業者を 含む)	(休職者 及び育児 休業者)	看護学 専攻 (休職者及び 育児休業者を 含む)	(休職者 及び育児 休業者)	寄附 講座等 (休職者及び 育児休業者を 含む)	(休職者 及び育児 休業者)	寄附 講座等 (休職者及び 育児休業者を 含む)	(休職者 及び育児 休業者)			
大学教員	教 授	30	(0)	10	(0)	5	(0)	7	(0)	14	(0)	
	准教授	23	(0)	5	(0)	3	(0)	0	(0)	18	(0)	
	講 師	10	(0)	3	(0)	2	(0)	1	(0)	46	(0)	
	助 教	26	(0)	11	(1)	6	(0)	13	(0)	152	(2)	
	計	89	(0)	29	(1)	16	(0)	21	(0)	230	(2)	
医療技術職員		155(1)									234	(10)
看護職員											698	(35)
その他職員		14(2)									128	(4)
合計		171(1)									1,290	(51)

歴代研究科長等 | Chronological Lists Deans and Directors |

研究科長				(令和8年4月1日現在)
鎮西 康雄	平17.4.1～平18.2.9	須藤 啓広	令2.4.1～令4.3.31	
駒田 美弘	平18.2.10～平22.3.31	堀 浩樹	令4.4.1～令6.3.31	
登 勉	平22.4.1～平25.3.31	平山 雅浩	令6.4.1～令8.3.31	
緒方 正人	平25.4.1～平29.3.31	山崎 英俊	令8.4.1～	
片山 直之	平29.4.1～令2.3.31			

医学部長				
三上 美樹	(事務取扱)	昭47.5.1～昭48.3.31	珠玖 洋	平10.2.10～平14.2.9
		昭48.4.1～昭49.2.9	鎮西 康雄	平14.2.10～平18.2.9
武田 進		昭49.3.10～昭53.3.9	駒田 美弘	平18.2.10～平22.3.31
井澤 道		昭53.3.10～昭55.2.9	登 勉	平22.4.1～平25.3.31
武田 進		昭55.2.10～昭59.2.9	緒方 正人	平25.4.1～平29.3.31
横山 實		昭59.2.10～昭61.2.9	片山 直之	平29.4.1～令2.3.31
伊豆津 公作		昭61.2.10～昭63.2.9	湊藤 啓広	令2.4.1～令4.3.31
杉山 陽一		昭63.2.10～平3.3.31	堀 浩樹	令4.4.1～令6.3.31
水本 龍二		平3.4.1～平6.3.31	平山 雅浩	令6.4.1～令8.3.31
矢谷 隆一		平6.4.1～平10.2.9	山崎 英俊	令8.4.1～

附属病院長			
井澤 道	昭48.10.1～昭52.9.30	川村 壽一	平11.4.1～平13.3.31
宮地 一馬	昭52.10.1～昭56.9.30	葛原 茂樹	平13.4.1～平17.3.31
三吉 康郎	昭56.10.1～昭60.3.31	内田 淳正	平17.4.1～平21.3.31
竹澤 英郎	昭60.4.1～昭62.3.31	竹田 寛	平21.4.1～平25.9.30
水本 龍二	昭62.4.1～平元.3.31	伊藤 正明	平25.10.1～令元.9.30
草川 實	平元.4.1～平5.3.31	伊佐地 秀司	令元.10.1～令4.3.31
鈴木 宏志	平5.4.1～平9.3.31	池田 智明	令4.4.1～令7.3.31
坂倉 康夫	平9.4.1～平11.3.31	佐久間 肇	令7.4.1～

腎泌尿器外科長(兼)	井上 貴博
眼科長(兼)	近藤 峰生
耳鼻咽喉・頭頸部外科長(兼)	柴田 博史
脳神経外科長(兼)	鈴木 秀謙
形成外科長(兼)	成島 三長
放射線科長(兼)	市川 泰崇
病理診断科長(兼)	(佐久間 肇)
ゲノム診療科長(兼)	奥川 喜永
麻酔科長(兼)	賀来 隆治
緩和ケア科長(兼)	賀来 隆治
救急科長(兼)	鈴木 圭
歯科口腔外科長(兼)	新井 直也
リハビリテーション科長(兼)	百崎 良

中央部門	
検査部長(兼)	杉本 和史
手術部長(兼)	水野 修吾
放射線部長(兼)	市川 泰崇
材料部長(兼)	井上 貴博
輸血・細胞治療部長(兼)	大石 晃嗣
集中治療部長(兼)	賀来 隆治
病理部長	今井 裕
光学医療診療部長(兼)	中川 勇人
血液浄化療法部長(兼)	片山 鑑
リハビリテーション部長(兼)	百崎 良

支援部門	
医療情報管理部長(兼)	土肥 薫
臨床研修・キャリア支援部長(兼)	土肥 薫
医療安全管理部長(兼)	兼兒 敏浩
感染制御部長(兼)	田辺 正樹
臨床研究開発センター長(兼)	田丸 智巳
がん支援センター長(兼)	水野 聡朗
Aiセンター長(兼)	兼兒 敏浩
広報センター長(兼)	奥川 喜永
CCUネットワーク支援センター長(兼)	土肥 薫

薬剤部	
薬剤部長	岩本 卓也

看護部	
看護部長	福永 稚子

医学・病院管理部	
管理部長	伊藤 利宏
総務課長	駒田 雅彦
総務課副課長	世古 恵美
〃	木平 順也
経営管理課長	福田 雄一
経営管理課副課長	三井 明

リウマチ・膠原病内科長(兼)	中島 亜矢子
総合診療部長(兼)	山本 憲彦
ゲノム医療部長(兼)	奥川 喜永
高度救命救急・総合集中治療センター長(兼)	鈴木 圭
周産母子センター長(兼)	近藤 英司
乳腺センター長(兼)	河口 浩介
血管ハートセンター長(兼)	土肥 薫
高度生殖医療センター長(兼)	近藤 英司
リウマチ・膠原病センター長(兼)	中島 亜矢子
消化器病センター長(兼)	中川 勇人
漢方医学センター長(兼)	高村 光幸
脊椎脊髄センター長	明田 浩司

栄養診療部長(兼)	兼兒 敏浩
臨床工学部長(兼)	井上 貴博
外来化学療法部長(兼)	齋藤 佳菜子
肝炎相談支援センター長(兼)	中川 勇人
臓器移植センター長(兼)	水野 修吾
口腔ケアセンター長(兼)	新井 直也
小児・AYAがんトータルケアセンター長(兼)	澤田 博文
認知症センター長(兼)	新堂 晃大
緩和ケアセンター長(兼)	松原 貴子
痛みセンター長(兼)	賀来 隆治
超音波センター長(兼)	土肥 薫

災害対策推進・教育センター長(兼)	岸和田 昌之
災害医療センター長(兼)	鈴木 圭
国際医療支援センター長(兼)	成島 三長
総合サポートセンター長(兼)	福永 稚子
チーム医療推進センター長(兼)	兼兒 敏浩
バイオバンクセンター長	江口 暁子
感染症危機管理センター長(兼)	土肥 薫
超音波センター長(兼)	土肥 薫
脳卒中・心臓病等総合支援センター長(兼)	土肥 薫
医療DXセンター(兼)	北川 寛也

総合がん治療センター	
総合がん治療センター長(兼)	佐久間 肇
経営管理課副課長	梶口 慎一郎
〃	阪井 栄紀
学務課長	島田 英行
医事課長	太田 善之
医事課副課長	天池 洋介
医療支援課長	高倉 良男
医療支援課副課長	田中 有美

学生 | Students

[医学部]

入学定員及び現員 (令和8年4月1日現在)

学科名	区分	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		合計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
医学科	入学定員	125		125		125		125		125		125		750	
	現員	75	52	86	41	90	35	87	43	73	51	73	51	484	273
看護学科	入学定員	80		80		90 (3年次編入 10名含む)		90 (3年次編入 10名含む)						340	
	現員	5	82	1	85	2	73	8	75					16	315

卒業者数 (令和8年4月1日現在)

学科名	昭和51年度～ 平成28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成31/ 令和元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	計
医学科	4,203	127	119	129	127	113	126	133	119	128	5,324

内訳

- ・三重県立医学専門学校……………277名
- ・三重大学医学部医学科……………5,324名
- ・三重県立医科大学……………161名
- ・三重県立大学医学部……………930名

(令和8年4月1日現在)

学科名	平成13年度～ 平成28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成31/ 令和元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	計
看護学科	1,397	79	77	77	82	82	77	78	74	79	2,102

内訳

- ・三重大学医療技術短期大学部……………715名
- ・三重大学医学部看護学科……………2,102名

[大学院 医学系研究科]

入学定員及び現員 (令和8年4月1日現在)

区分		収容定員		現員				合計
		入学定員	総定員	1年	2年	3年	4年	
修士・博士 前期課程	医科学	12	24	12	10			22
	看護学	11	22	8<7>	11<5>			19
博士後期課程	看護学	3	9	6	2	9		17
博士課程	生命医科学	45	180	49<47>	39<34>	34<12>	44<40>	166
合計		71	235	75 (0)<54>	62 (0)<39>	43 (0)<12>	44<40>	224

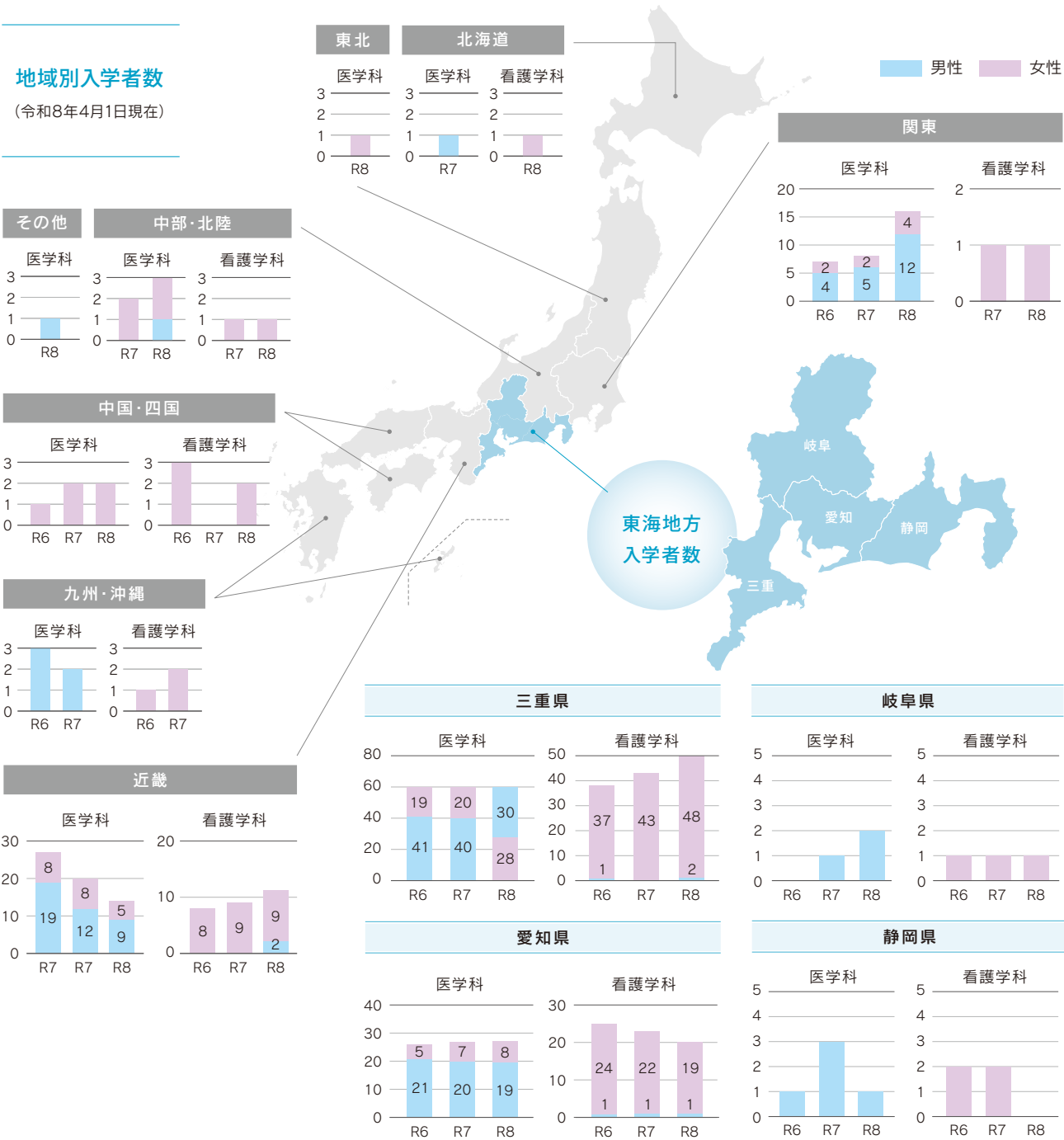
()内は、昼夜開講制による学生を内数で示してください／< >内は、社会人特別選抜による学生を内数で示してください

学位(博士(医学)、博士(看護学))授与数 (令和8年4月1日現在)

旧制学位	新制学位		合計
三重県立医科大学	博士課程	論文博士	
333	1,711	1,134	3,178

地域別入学者数

(令和8年4月1日現在)



大学院医学系研究科・医学部について

About the Mie University Graduate School of Medicine / Faculty of Medicine

図書及び雑誌 | Books and Journals |

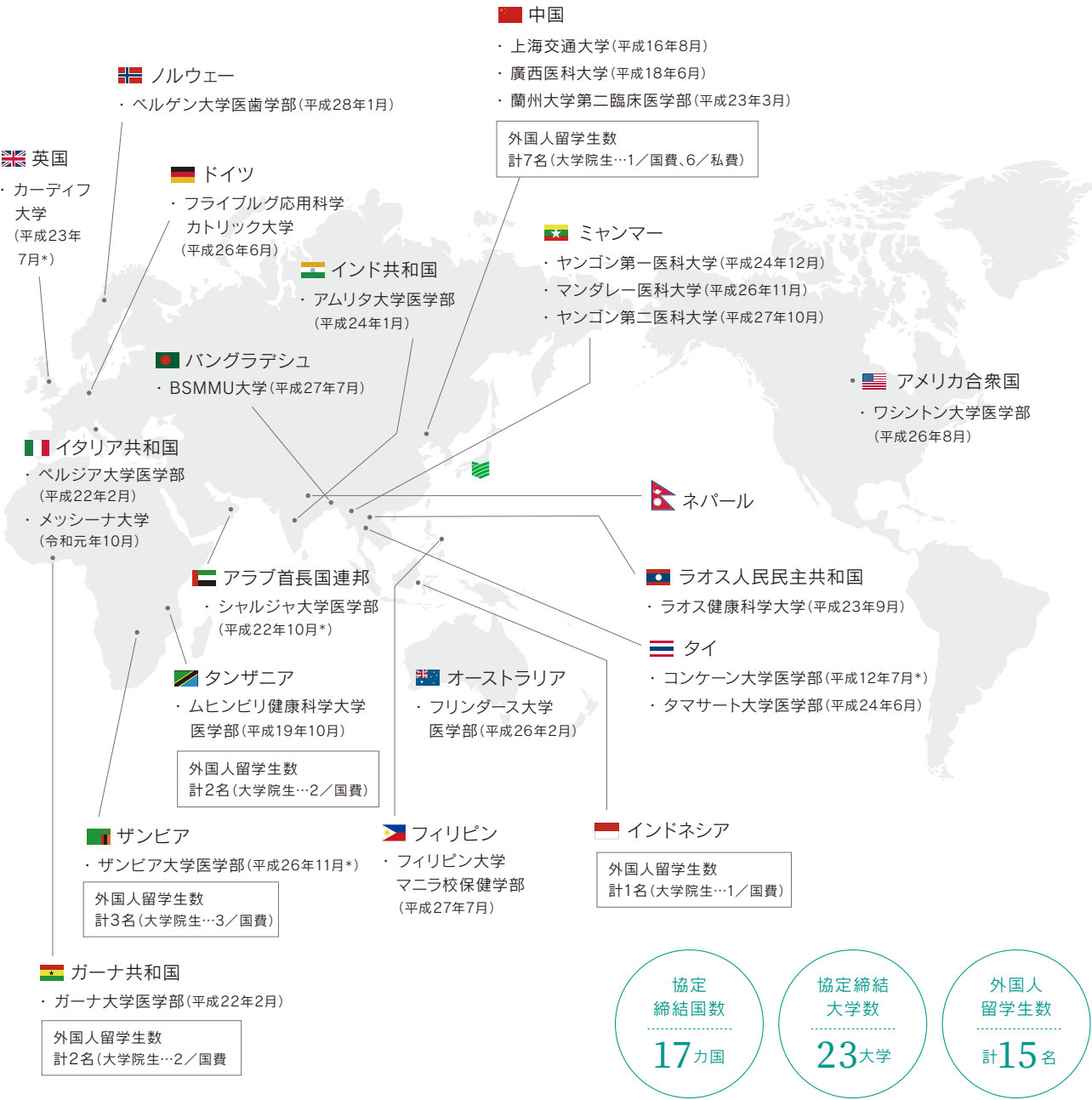
(令和8年3月31日現在)			
区分	単行図書(冊)	製本雑誌(冊)	合計(冊)
和書	16,385	10,850	27,235
洋書	1,190	21,873	23,063
計	17,575	32,723	50,298

(令和8年3月31日現在)		
区分	総種類数(種)	継続購入種類数(種)
国内雑誌	594	80
外国雑誌	916	216
計	1,510	296

国際交流 | International Exchange |

国際交流協定締結大学等 (令和8年3月31日現在)	外国人留学生数 (令和8年5月1日現在)
---------------------------	----------------------

(日付は協定締結年月日／＊は大学間協定)



解剖体数 | Number of Autopsies |

(令和8年3月31日現在)											
区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	計
解剖体数	31	31	33	33	32	32	33	33	32	34	324
収集体数	47	47	49	39	21	36	30	32	41	36	378

病理解剖 |

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	計
解剖体数	18	12	23	11	12	18	27	16	21	12	170

科学研究費助成事業採択状況 | Grants-in-Aid for Scientific Research |

(令和7年度実績)

研究種目		件数	金額(千円)	計(件数)	計(金額／千円)
新学術領域研究	医学部	0	0	0	0
	附属病院	0	0		
基盤研究(A)	医学部	0	0	0	0
	附属病院	0	0		
基盤研究(B)	医学部	16	65,700	18	71,800
	附属病院	2	6,100		
基盤研究(C)	医学部	74	71,300	134	132,300
	附属病院	60	61,000		
挑戦的研究(開拓)	医学部	1	2,500	1	2,500
	附属病院	0	0		
挑戦的研究(萌芽)	医学部	2	2,700	2	2,700
	附属病院	0	0		
若手研究	医学部	11	11,700	48	50,550
	附属病院	37	38,850		
研究活動スタート支援	医学部	1	1,100	1	1,100
	附属病院	0	0		
研究成果公開促進費	医学部	0	0	0	0
	附属病院	0	0		
特別研究員奨励費	医学部	0	0	0	0
	附属病院	0	0		
奨励研究	医学部	0	0	1	350
	附属病院	1	350		
国際共同研究強化	医学部	0	0	0	0
	附属病院	0	0		
直接経費のみ 計	医学部	105	155,000	205	261,300
	附属病院	100	106,300		

外部資金受入状況 | Orijin and Division of Off-campus Funds |

(令和7年度実績)

区分		件数	金額(千円)	計(件)	計(金額／千円)
奨学寄附金	医学部	1,019	620,489	1,068	679,399
	附属病院	49	58,910		
受託研究	医学部	59	567,102	110	638,878
	附属病院	51	71,776		
共同研究	医学部	50	191,620	71	197,724
	附属病院	21	6,104		
受託事業	医学部	8	33,034	13	83,407
	附属病院	5	50,373		
計	医学部	1,136	1,412,245	1,262	1,599,408
	附属病院	126	187,163		

医学部附属病院について

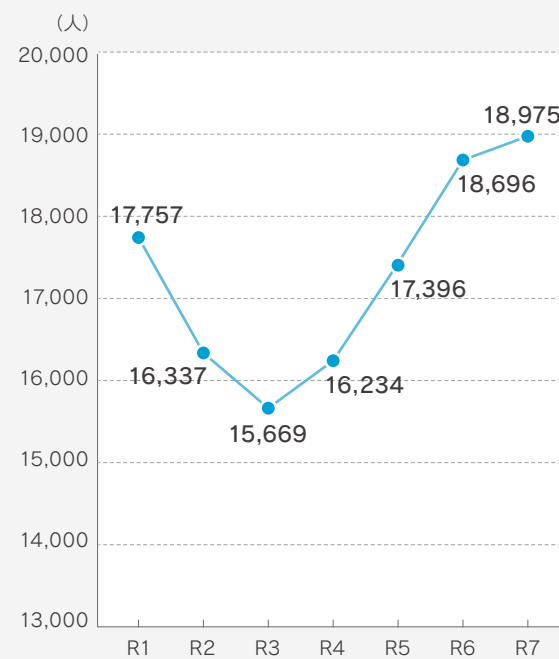
About the Mie University Hospital

病院実績 | Performance

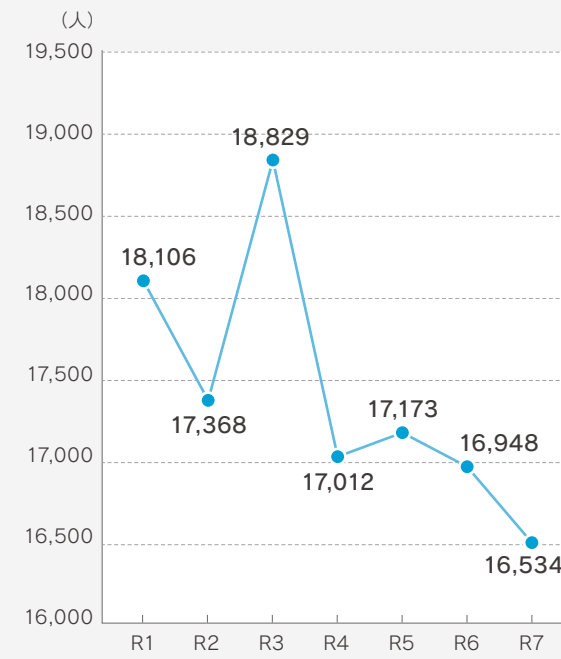
[685床(うち精神科神経科30床)]

医療機関を取り巻く経営環境は厳しさを増す中、診療体制強化を行い、地域医療の中核として高度で先進的な医療の提供と持続可能な病院運営の両立を図っています。

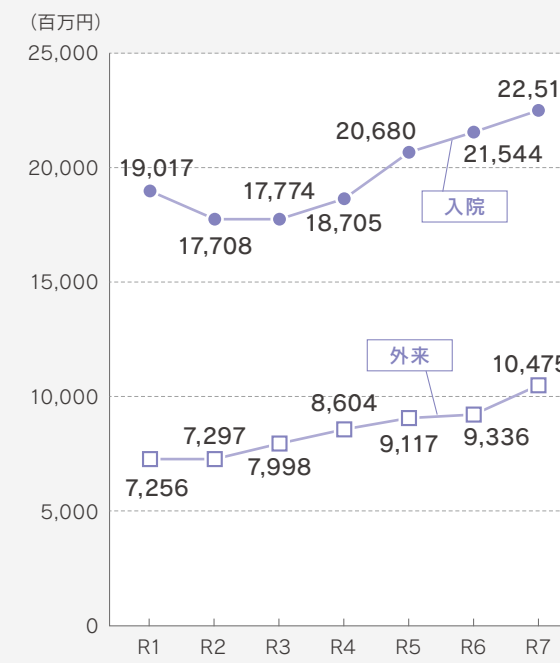
新患者数(入院)



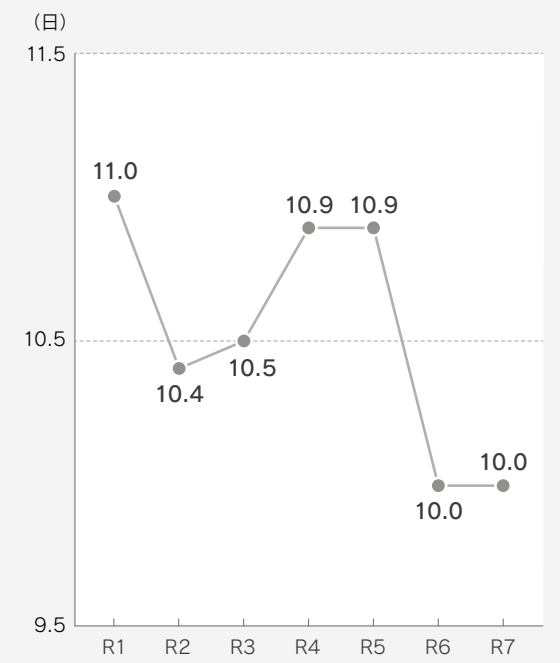
新患者数(外来)



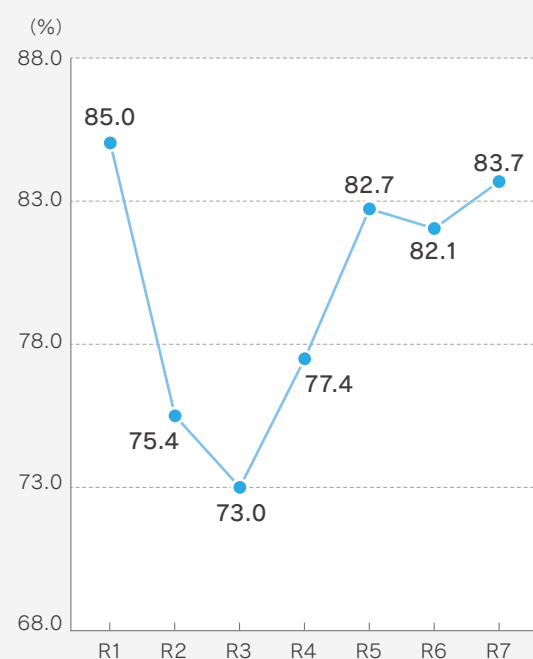
稼働額(入院・外来)



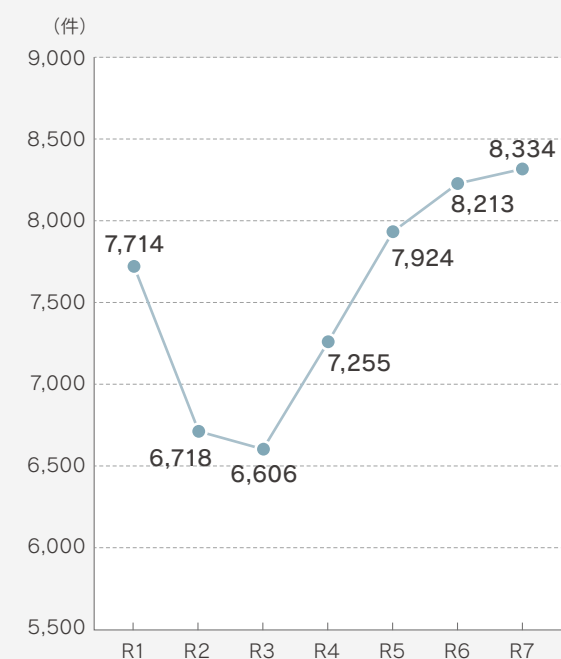
平均在院日数(一般病棟)



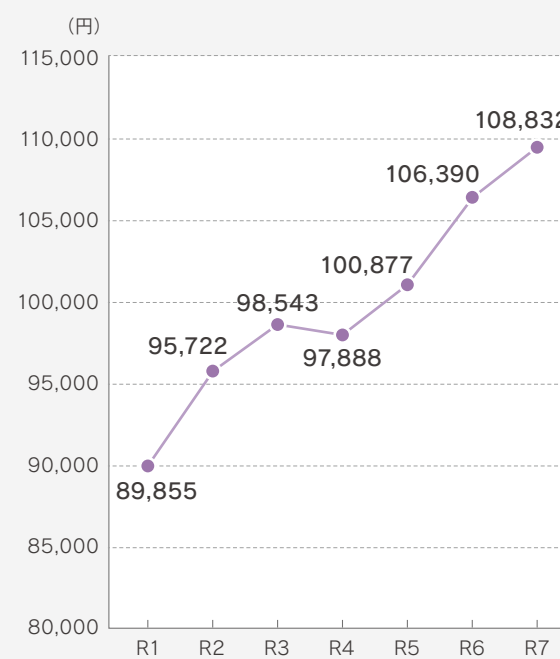
病床稼働率(一般病棟)



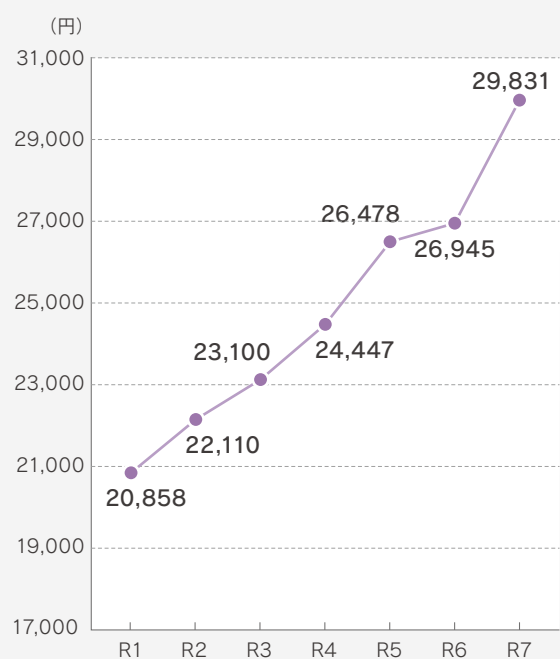
手術件数



診療単価(入院)



診療単価(外来)



[臨床検査件数(検査部・輸血部・細胞治療部)] (令和7年度実績)

区分	入院(件)	外来(件)	計(件)
一般検査	24,555	87,227	111,782
血液学の検査	267,913	311,693	579,606
生化学の検査	1,386,779	2,568,684	3,955,463
免疫学の検査	20,077	91,070	111,147
遺伝子学的検査	132	611	743
微生物学の検査	15,711	6,694	22,405
輸血検査	15,173	19,363	34,536
生理機能検査	13,322	35,962	49,284
計	1,743,662	3,121,304	4,864,966

[X線撮影、透視、CT及びMRI検査人数] (令和7年度実績)

区分		入院(件)	外来(件)	計(件)
一般撮影(単純)		32,544	39,123	71,667
一般撮影(造影)		960	588	1,548
X線CT検査		9,056	20,738	29,794
MRI検査		2,615	10,229	12,844
PET-CT		39	1,144	1,183
放射線治療	体外照射	9,588	11,275	20,863
	腔内照射	177	0	177
計		54,979	83,097	138,076

[処方枚数、件数及び薬剤数] (令和7年度実績)

区分		枚数(枚)	件数(件)	薬剤数(剤)
入院		134,696	265,046	1,637,873
外来	院内	4,531	11,293	128,544
	院外	182,333	594,978	19,699,639
計		321,560	871,317	21,466,056

[分娩件数] (令和7年度実績)

	分娩件数		分娩件数の内、 ハイリスク分娩管理	ハイリスク率	総計
	時間外	時間内			
総計	187	238	133	31%	425

臨床研究開発センター Clinical Research and Development Center

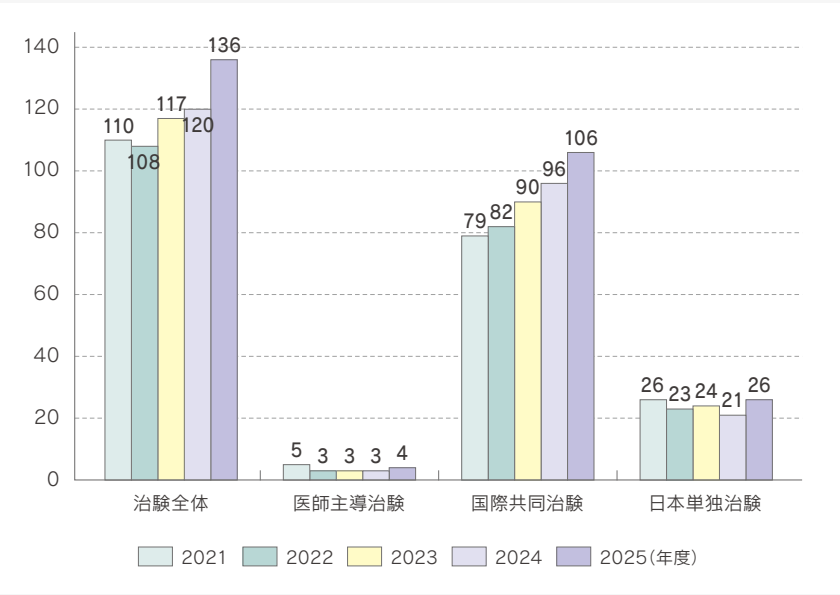
当院の臨床研究開発センターは、地域の住民の皆様や医療機関との連携を通じて臨床研究や治験を積極的に推進する支援組織であるとともにリサーチマインドを有する医療人の育成になくてはならない部門です。

製薬企業主導の医薬品（医療機器）の治験、医師主導型治験、グローバル治験、臨床研究の実施支援や生物統計家による臨床統計のコンサルテーション、登録・データセンター等を行っています。



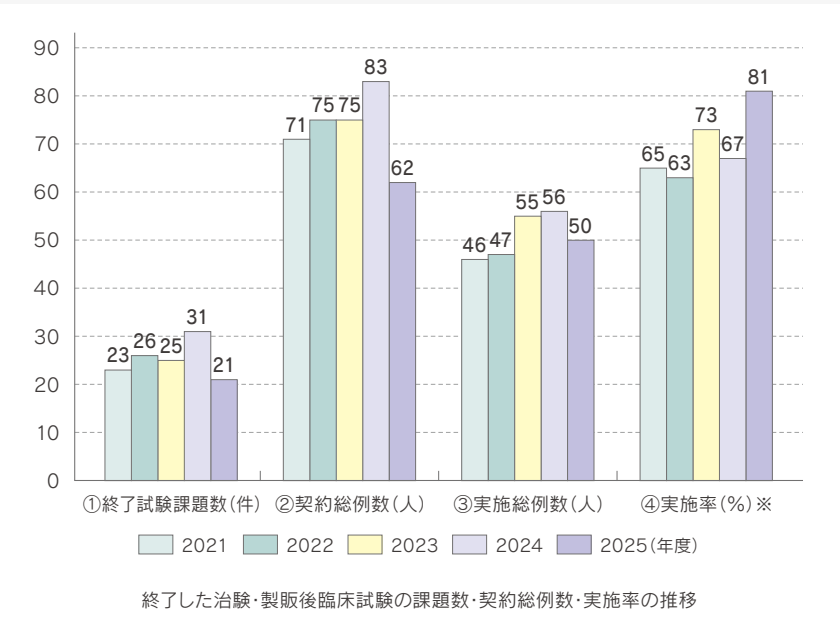
当院のオリジナル・シーズ開発とその支援

2012年度開始の「臨床研究・治験活性化5か年計画」では、メディカルイノベーション推進政策を踏まえ、大学の医薬品/医療機器シーズの臨床開発を促進するための支援体制整備を進めてきました。三重大大学では、がんの新たな治療法として期待されている“がんワクチン/免疫細胞治療”の研究を積極的に進めており、2012年には開発型医師主導治験（CHP-NY-ESO-1）の実施支援をしております。その他、三重大大学にある医薬品等のシーズの開発支援を行っています。



治験実施状況

最近の大学病院における治験の傾向は、難易度の高い治験や複雑なデザインによる国際共同治験が増え、しかも1治験あたりの症例数が少ないなどです。外部資金の獲得に寄与しますので実施率の向上に引き続きご協力をお願いします。



医療機関等の指定状況等 Services related Medical Care Legislations and Dates of Approval

医療機関の承認等 (令和8年4月1日現在)

昭和48. 10. 1	医療法による病院開設認可	昭和63. 3.29	臨床修練指定病院(外国医師・外国歯科医師)
〃	総合病院の名称使用承認	6. 1	健康保険法による特定承認保険医療機関
〃	健康保険法による保険医療機関	〃	国民健康保険法による特定承認保険医療機関
〃	国民健康保険法による保険医療機関	平成 6. 11. 1	特定機能病院の名称承認
昭和57. 4.27	消防法による救急医療機関承認		

医療機関の承認等 (令和8年4月1日現在)

昭和48. 10. 1	生活保護法による医療	昭和60. 11. 7	労働者災害補償保険法による医療(アフターケア)
〃	結核予防法による医療	昭和61. 1. 1	特定疾患治療研究事業(シャイ・ドレーガ症候群)
〃	労働者災害補償保険法による医療	昭和62. 1. 1	特定疾患治療研究事業(表皮水痘症(接合部型及び栄養障害型))
〃	老人福祉法による医療	昭和63. 1. 1	特定疾患治療研究事業(膵癌性乾癪)
〃	母子保健法による医療(養育医療、三歳児精密検診)	昭和64. 1. 1	特定疾患治療研究事業(広範脊柱管狭窄症)
〃	児童福祉法による医療(育成医療)	平成 元. 10. 1	先天性血液凝固因子障害治療研究事業
〃	精神保健法による医療	平成 2. 1. 1	特定疾患治療研究事業(原発性胆汁性肝硬変)
〃	身体障害者福祉法による医療(更正医療)	4. 1	小児慢性特定疾患治療研究事業(神経筋疾患)
〃	戦傷病者特別援護法による医療(更正医療)	平成 3. 1. 1	特定疾患治療研究事業(重症急性肺炎)
〃	特定疾患治療研究事業(スモン、ベーチェット病、重症筋無力症、全身性エリテマトーデス、多発性硬化症、再生不良性貧血)	平成 4. 1. 1	特定疾患治療研究事業(特発性大腿骨頭壊死症)
昭和48. 12. 7	船員法による医療	平成 5. 1. 1	特定疾患治療研究事業(混合性結合組織病)
昭和49. 2. 5	原爆医療法による医療	平成 6. 1. 1	特定疾患治療研究事業(原発性免疫不全症候群)
4. 1	小児慢性特定疾患治療研究事業(悪性新生物、慢性腎疾患、ぜんそく、先天性代謝異常、血友病等血痕疾患)	平成 7. 1. 1	特定疾患治療研究事業(特発性間質性肺炎)
9. 1	公害健康被害補償法による医療	平成 8. 1. 1	特定疾患治療研究事業(網膜色素変性症)
10. 1	特定疾患治療研究事業(サルコイドーシス、筋萎縮性側索硬化症、強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎、特発性血小板減少性紫斑病)	2.21	エイズ治療拠点病院
〃	小児慢性特定疾患治療研究事業(慢性心疾患、内分泌疾患、膠原病、糖尿病)	平成 9. 1. 1	特定疾患治療研究事業(プリオン病)
昭和50. 8. 1	地方公務員災害補償法による医療	1. 6	地域災害拠点病院の指定
〃	国家公務員災害補償法による医療	平成10. 1. 1	特定疾患治療研究事業(原発性肺高血圧症)
10. 1	特定疾患治療研究事業(結節性動脈周囲炎、潰瘍性大腸炎、大動脈炎症候群、ピュルカー病、天痘瘡)	4. 1	身体障害者福祉法による医療(更生医療)(ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害)
昭和51. 10. 1	特定疾患治療研究事業(脊髄小脳変性症、クローン病、難治性肝炎のうち劇症肝炎)	5. 1	特定疾患治療研究事業(神経線維腫症Ⅰ型／神経線維腫症Ⅱ型)
昭和52. 10. 1	特定疾患治療研究事業(悪性関節リウマチ)	12. 1	特定疾患治療研究事業(亜急性硬化性全脳炎)
昭和53. 10. 1	特定疾患治療研究事業(パーキンソン病)	〃	特定疾患治療研究事業(バット・キアリ(Budd-Chiari)症候群)
昭和54. 10. 1	特定疾患治療研究事業(アミロイドーシス)	〃	特定疾患治療研究事業(特発性慢性肺血栓栓塞症(肺高血圧型))
昭和55. 4. 1	母子保健法による医療(妊娠・乳児一般健診)	平成11. 4. 1	特定疾患治療研究事業(ライソゾーム病)
12. 1	特定疾患治療研究事業(後縦靭帯骨化症)	平成12. 4. 1	特定疾患治療研究事業(副腎白質ジストロフィー)
昭和56. 10. 1	特定疾患治療研究事業(ハンチントン病)	10. 1	身体障害者福祉法による医療(更生医療)(小腸に関する医療)
昭和57. 10. 1	特定疾患治療研究事業(モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症))	平成19. 1.31	がん診療連携拠点病院の指定
昭和59. 1. 1	特定疾患治療研究事業(ウェゲナー肉芽腫症)	平成20. 12.15	肝疾患診療連携拠点病院の指定
昭和60. 1. 1	特定疾患治療研究事業(特発性拡張型(うつ血型)心筋症)	平成25. 2. 8	小児がん拠点病院の指定
		平成30. 3.30	三重県アレルギー疾患医療拠点病院
		令和 元. 9.19	がんゲノム医療拠点病院
		令和 2. 2.26	特定行為研修指定研修機関の指定

基本診療料の施設基準 (令和8年4月1日現在)

- 情報通信機器を用いた診療に係る基準
 - 医療情報・システム基盤整理体制充実加算
 - 臨床研修病院入院診療加算(医科)
 - 臨床研修病院入院診療加算(歯科)
 - 救急医療管理加算
- 超急性期脳卒中加算
 - 妊産婦緊急搬送入院加算
 - 診療録管理体制加算1
 - 医師事務作業補助体制加算1 20対1補助体制加算
 - 夜間100対1急性期看護補助体制加算

【 基本診療料の施設基準 】（令和8年4月1日現在）

- 急性期看護補助体制加算 夜間看護体制加算
- 急性期看護補助体制加算 看護補助体制充実加算2
- 看護職員夜間配置加算 看護職員夜間12対1配置加算1
- 超重症児(者)入院診療加算・準超重症児(者)入院診療加算
- 看護補助加算 看護補助体制充実加算
- 看護補助加算2
- 療養環境加算
- 重症者等療養環境特別加算
- 無菌治療室管理加算1
- 無菌治療室管理加算2
- 放射線治療病室管理加算 治療用放射性同位元素による治療の場合
- 放射線治療病室管理加算(密封小線源による治療の場合)
- 緩和ケア診療加算 個別栄養食事管理加算
- 緩和ケア診療加算
- 小児緩和ケア診療加算
- 小児緩和ケア診療加算 小児個別栄養管理加
- 精神科身体合併症管理加算
- 依存症入院医療管理加算
- 摂食障害入院医療管理加算
- がん拠点病院加算1イ がん診療連携拠点病院
- がん拠点病院加算2小児がん拠点病院加算
- がん拠点病院加算 がんゲノム拠点病院加算
- 栄養サポートチーム加算
- 医療安全対策加算1
- 感染対策向上加算1
- 感染対策向上加算 指導強化加算
- 患者サポート体制充実加算
- 重症患者初期支援充実加算
- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
- ハイリスク妊娠管理加算
- ハイリスク分娩管理加算
- 呼吸ケアチーム加算
- 術後疼痛管理チーム加算
- 病棟薬剤業務実施加算 薬剤業務向上加算
- データ提出加算2 許可病床数が200床以上の病院の場合
- 入退院支援加算1

【 特掲診療料の施設基準 】（令和8年4月1日現在）

- 心臓ペースメーカー指導管理料 遠隔モニタリング加算
- 高度難聴指導管理料
- 糖尿病合併症管理料
- がん性疼痛緩和指導管理料
- がん患者指導管理料イ
- がん患者指導管理料ニ
- がん患者指導管理料ハ
- がん患者指導管理料ロ
- 外来緩和ケア管理料
- 移植後患者指導管理料(臓器移植後)
- 移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)
- 糖尿病透析予防指導管理料
- 乳腺炎症化予防・ケア指導料
- 婦人科特定疾患治療管理料
- 腎代替療法指導管理料
- 一般不妊治療管理料
- 生殖補助医療管理料1

- 入退院支援加算3
- 入退院支援加算 地域連携診療計画加算
- 入退院支援加算 入院時支援加算
- 入退院支援加算 総合機能評価加算
- 医療のケア児(者)入院前支援加算
- せん妄ハイリスク患者ケア加算
- 精神疾患診療体制加算1、2
- 排尿自立支援加算
- 地域医療体制確保加算
- 救命救急入院料 救急体制充実加算1
- 救命救急入院料 小児加算
- 救命救急入院料 早期離床・リハビリテーション加算
- 特定集中治療室管理料1
- 特定集中治療室管理料 小児加算
- 特定集中治療室管理料 早期栄養介入管理加算
- ハイケアユニット入院医療管理料1
- ハイケアユニット入院医療管理料 早期離床・リハビリテーション加算
- 特定集中治療室管理料1(算定上限日数に係る施設基準)
- 特定集中治療室管理料1(早期離床・リハビリテーション加算)
- 新生児特定集中治療室管理料1
- 総合周産期特定集中治療室管理料 母体・胎児集中治療室管理料
- 総合周産期特定集中治療室管理料 成育連携支援加算
- 新生児治療回復室入院医療管理料
- 小児入院医療管理料2
- 小児入院医療管理料 プレイルーム加算 保育士2名以上の場合
- 小児入院医療管理料 養育支援体制加算
- 小児入院医療管理料2(無菌治療管理加算)
- 短期滞在手術等基本料1
- 看護職員処遇改善評価料
- 外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
- 入院ベースアップ評価料
- 歯科診療特別対応連携加算
- 地域歯科診療支援病院歯科初診料
- 歯科外来診療感染対策加算3
- 歯科外来診療医療安全対策加算2
- 歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)

- 外来腫瘍化学療法診療料1
- 外来腫瘍化学療法診療料 がん薬物療法体制充実加算
- 外来リハビリテーション診療料
- 外来放射線照射診療料
- 開放型病院共同指導料
- ハイリスク妊産婦連携指導料Ⅰ
- ハイリスク妊産婦連携指導料Ⅱ
- こころの連携指導料(Ⅱ)
- ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅱ)
- がん治療連携計画策定料
- がん治療連携管理料1
- がん治療連携管理料2
- がん治療連携管理料3
- 外来がん患者在宅連携指導料
- 認知症専門診断管理料
- 肝炎インターフェロン治療計画料
- 外来排尿自立指導料

【 特掲診療料の施設基準 】（令和8年4月1日現在）

- 診療情報提供料(Ⅰ) 地域連携診療計画加算
- 電子的診療情報評価料
- 診療情報提供料(Ⅰ) 検査・画像情報提供加算
- 医療機器安全管理料2
- 医療機器安全管理料1
- 救急患者連携搬送料
- 在宅血液透析指導管理料
- 在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
- 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料 膠芽腫の場合
- 在宅経肛門の自己洗腸指導管理料
- 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)
- 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
- 骨髄微小残存病変量
- BRCA1/2遺伝子検査 血液を検体とするもの
- がんゲノムプロファイリング検査
- 造血管腫瘍遺伝子検査
- 遺伝学的検査
- 染色体検査 注2に係る絨毛染色体検査
- 先天性代謝異常症検査
- 抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
- ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
- 微生物核酸同定・定量検査 HPV核酸検出
- 微生物核酸同定・定量検査 HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
- 微生物核酸同定・定量検査 ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)
- 検体検査判断料 検体検査管理加算(Ⅰ)
- 検体検査判断料 検体検査管理加算(Ⅳ)
- 検体検査判断料 国際標準検査管理加算
- 検体検査判断料 遺伝カウンセリング加算
- 検体検査判断料 遺伝性腫瘍カウンセリング加算
- 植込型心電図検査
- 時間内歩行試験
- シャトルウォーキングテスト
- 超音波検査 心臓超音波検査 胎児心エコー法
- ヘッドアップティルト試験
- 皮下連続式グルコース測定
- 長期継続頭蓋内脳波検査
- 脳波検査判断料1
- 神経学的検査
- 補聴器適合検査
- 全視野精密網膜電図
- 黄斑局所網膜電図
- ロービジョン検査判断料
- コンタクトレンズ検査料1
- 内服・点滴誘発試験
- センチネルリンパ節生検(片側) 併用法
- センチネルリンパ節生検(片側) 単独法
- 経頭静脈の肝生検
- 前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)
- 経気管肺生検法(CT透視下気管支鏡検査加算)
- 経気管支凍結生検法
- ポジトロン断層撮影 アミロイドPETイメージング剤を用いた場合
- ポジトロン断層撮影

- ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影 アミロイドPETイメージング剤を用いた場合
- ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
- コンピューター断層撮影(CT撮影及びMRI撮影)
- コンピューター断層撮影(CT撮影) 冠動脈CT撮影加算
- コンピューター断層撮影(CT撮影) 外傷全身CT加算
- 血流予備量比コンピューター断層撮影
- コンピューター断層撮影(大腸CT撮影加算)
- 磁気共鳴コンピューター断層撮影(MRI撮影) 肝エラストグラフィ加算
- 磁気共鳴コンピューター断層撮影(心臓MRI撮影加算)
- 磁気共鳴コンピューター断層撮影(乳房MRI撮影加算)
- 磁気共鳴コンピューター断層撮影(頭部MRI撮影加算)
- 画像診断管理加算1
- 画像診断管理加算4
- 処方料 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- 外来化学療法加算1
- 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
- 廃用症候群リハビリテーション料(Ⅱ)
- 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
- 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
- 摂食機能療法 摂食嚥下機能回復体制加算2
- 通院・在宅精神療法 療養生活継続支援加算
- 認知療法・認知行動療法1 医師による場合
- 精神科ショート・ケア 小規模なもの
- 精神科デイ・ケア 小規模なもの
- 抗精神病特定薬剤治療指導管理料 治療抵抗性統合失調症治療指導管理料
- 医療保護入院等診療料
- 静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
- 硬膜外自家血注入
- エタノールの局所注入(副甲状腺)
- エタノールの局所注入(甲状腺)
- 人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)
- 人工腎臓 導入期加算3
- 人工腎臓(透析液水質確保加算2)
- 血漿交換療法(難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法)
- 血漿交換療法(移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法)
- ストーマ処置 ストーマ合併症加算
- 一酸化窒素吸入療法
- 皮膚悪性腫瘍切除術 センチネルリンパ節加算を算定する場合
- 皮膚移植術(死体)
- 組織拡張器による再建手術(一連につき) 乳房(再建手術)の場合
- 四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術 処理骨再建加算
- 骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法(一連として)
- 骨悪性腫瘍手術(処理骨再建加算)
- 骨移植術(軟骨移植術を含む。) 同種骨移植(非生体) 同種骨移植(特殊なもの)
- 骨移植術(軟骨移植術を含む。) 自家培養軟骨移植術
- 人工股関節置換術(手術支援装置を用いるもの)
- 後縦靱帯骨化症手術
- 椎間板内酵素注入療法
- 腫瘍脊椎骨全摘術
- 緊急穿頭血腫除去術
- 頭蓋内腫瘍摘出術 原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算

〔特掲診療料の施設基準〕（令和8年4月1日現在）

- 脳刺激装置植込術
- 脳刺激装置交換術
- 癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
- 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
- 角結膜悪性腫瘍切除手術
- 角膜移植術(内皮移植加算)
- 羊膜移植術
- 緑内障手術(流出路再建術 眼内法)(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
- 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
- 緑内障手術(濾過泡再建術(needle 法))
- 毛様体光凝固術 眼内内視鏡を用いるもの
- 網膜再建術
- 経外耳道の内視鏡下鼓室形成術
- 人工中耳植込術
- 人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補助器交換術
- 内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅴ(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る)
- 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
- 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- 内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
- 鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
- 鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- 頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
- 乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(MRIによるもの)
- 乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者)
- 乳腺悪性腫瘍手術(乳癌センチネルリンパ節生検加算1又は乳癌センチネルリンパ節生検加算2を算定する場合に限る。)
- 乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪切除術(腋窩郭清を伴うもの)
- ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術【一次一期的再建・一次二期的再建及び二次再建】
- 乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
- 胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- 胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- 胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- 胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 気管支形成を伴う肺切除
- 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 肺葉切除又は1肺葉を超えるもの(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除、肺葉切除又は1肺葉を超えるもの及び気管支形成を伴う肺切除に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)の施設基準
- 肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
- 肺悪性腫瘍手術 壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)
- 内視鏡による縫合術・閉鎖術[食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膈腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)]
- 胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- 経皮的冠動脈形成術
- 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)

- 経皮的冠動脈ステント留置術
- 植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
- 経皮的大動脈遮断術
- 経皮的下肢動脈形成術
- 腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
- 腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
- ダメージコントロール手術
- 骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
- 内視鏡的逆流防止粘膜切除術
- 腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
- 腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
- 腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
- 腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
- 胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
- バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
- 腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
- 胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る)
- 腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除)
- 腹腔鏡下肝切除術(亜区域切除、1区域切除(外側区域切除を除く。)、2区域切除及び3区域切除以上のもの)
- 腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- 生体部分肝移植術
- 同種死体肝移植術
- 腹腔鏡下脾腫瘍摘出術
- 腹腔鏡下脾中央切除術
- 腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術
- 腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- 腹腔鏡下脾頭部腫瘍切除術
- 腹腔鏡下脾頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- 腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- 内視鏡的小腸ポリープ切除術
- 腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- 副腎腫瘍ラジオ波焼灼療法
- 腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
- 腹腔鏡下腎悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
- 腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
- 腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- 同種死体腎移植術
- 生体腎移植術
- 膀胱水圧拡張術 ハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
- 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
- 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- 人工尿道括約筋植込・置換術
- 膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外) 埋没陰茎手術 陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
- 精巣内精子採取術
- 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)

〔特掲診療料の施設基準〕（令和8年4月1日現在）

- 腹腔鏡下仙骨腰固定術
- 腹腔鏡下仙骨腰固定術(内視鏡手術用支援機器を用いた場合)
- 腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍術(子宮体がんに限る)
- 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍術(子宮頸がんに限る)
- 腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
- 子宮附属器腫瘍摘出術(両側)(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者)
- 胎児胸腔・羊水腔シャント術
- 体外式膜型人工肺管理料
- 輸血管理料Ⅰ
- 輸血管理料 貯血式自己血輸血管理体制加算
- 造血幹細胞移植 コーディネート体制充実加算
- 自己生体組織接着剤作成術
- 同種クリオプレシビテート作製術
- 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
- 胃瘻造設時嚥下評価機能加算
- 医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6に掲げる手術
- 放射線治療管理料 放射線治療専任加算
- 放射線治療管理料 外来放射線治療加算
- 体外照射 強度変調放射線治療(IMRT)
- 体外照射 強度変調放射線治療(IMRT) 一回線量増加加算
- 体外照射 高エネルギー放射線治療 一回線量増加加算
- 体外照射 画像誘導放射線治療加算
- 体外照射 体外照射呼吸性移動対策加算
- 直線加速器による放射線治療 定位放射線治療呼吸性移動対策加算

- 直線加速器による放射線治療 定位放射線治療の場合
- 密封小線源治療(画像誘導密封小線源治療加算)
- デジタル病理画像による病理診断
- 病理診断料 病理診断管理加算2
- 病理診断料 悪性腫瘍病理組織標本加算
- 保険医療機関間の連携による病理診断
- 保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
- 保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
- 歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
- 口腔細菌定量検査
- 歯科口腔リハビリテーション料2
- 加圧根管充填処置 手術用顕微鏡加算
- 歯根端切除手術 歯科用3次元エックス線断層撮影装置及び手術用顕微鏡を用いた場合
- 広範囲顎骨支持型装置埋入手術
- 上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
- クラウン・ブリッジ維持管理料
- 印象採得 歯科技工士連携加算1
- 光学印象 光学印象歯科技工士連携加算
- 咬合採得 歯科技工士連携加算1
- 仮床試適 歯科技工士連携加算1
- CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
- 歯科技工加算

〔先進医療A(第2項先進医療技術)〕（令和8年4月1日現在）

令和 4. 10. 1	子宮内細菌叢検査2	令和 7. 8. 1	β2GPIネオセルフ抗体検査
令和 5. 3. 1	膜構造を用いた生理学的精子選択術	令和 8. 2. 1	タイムラプス撮像法による受精卵・胚培養
令和 4. 4. 1	子宮内膜受容能検査2	令和 8. 4. 1	標準治療終了におけるがんゲノムプロファイリング検査
令和 7. 7. 1	腹腔鏡下卵巣悪性腫瘍手術		

〔先進医療B(第3項先進医療技術)〕（令和8年4月1日現在）

平成28.11. 1	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検早期胃がん
令和 8. 3. 1	切除不能進行または再発大腸癌における血中循環腫瘍DNAを用いた逐次的がん遺伝子パネル検査
令和 8. 4. 1	アルゴンプラズマ高周波焼灼・凝固療法

施設案内 Information

病院各階案内図 | Guide to Hospital Floors |

[病棟・外来・診療棟] (令和8年5月1日現在)

12F	■ レストラン「四喜折々」 ■ 三医会ホール		
11F 6F	■ 病棟		
5F	■ 院内学級 ■ 大ホール ■ 大会議室 ■ 病棟 ■ 患者図書館		
4F	■ 皮膚科 ■ 精神科神経科	■ 歯科口腔外科・口腔ケアセンター ■ 肝炎相談支援センター	■ 脳波検査室
3F	■ 総合診療科 ■ 総合内科 ■ 循環器内科 ■ 消化器・肝臓内科 ■ 呼吸器内科 ■ 材料部 ■ 手術部(手術室) ■ 腎臓内科 ■ 感染症内科	■ 血液内科 ■ 腫瘍内科 ■ 糖尿病・内分泌内科 ■ 臨床麻酔部 ■ 臨床工学部 ■ 腎泌尿器外科 ■ 緩和ケア科 ■ 外来化学療法部 ■ リウマチ・膠原病センター	■ 血管ハートセンター ■ 輸血部 ■ 病理部 ■ 採血室 ■ 生理機能検査室 ■ ゲノム診療科 ■ 遺伝カウンセリング室 ■ 眼科機能検査室
2F	■ 一般外科 ■ 消化管外科 ■ 肝臓胆・移植外科 ■ 心臓血管外科 ■ 呼吸器外科 ■ 整形外科 ■ 血液浄化療法部(透析センター) ■ 産科婦人科	■ 小児科 ■ 小児外科 ■ 眼科 ■ 耳鼻咽喉・頭頸部外科 ■ 脳神経内科 ■ 放射線部 ■ 脳神経外科 ■ 形成外科	■ 放射線診断科 ■ IVR科 ■ 乳腺センター ■ 光学医療診療部(内視鏡室) ■ 麻酔科 ■ 放射線部 ■ 血管ハートセンター ■ 総合集中治療センター
1F	■ 各種受付 ■ 総合サポートセンター ■ 放射線治療 ■ リハビリテーション部 ■ 放射線部(RI検査室) ■ 高度救命救急センター(救急外来) ■ 臓器移植センター ■ 栄養指導室	■ 栄養診療部 ■ 栄養診療部(厨房) ■ 薬剤部 ■ リボنزハウス ■ 郵便局 ■ ATM ■ ローソン ■ 医療材料渡し窓口	■ 時間外受付・防災センター ■ 医療品売店 ■ ドトール ■ ミーベのパン工房 ■ 理容・美容 ■ くつろぎ・憩いのコーナー

[みらい棟]

4F	■ MUDX initiative
3F	■ 高度生殖医療センター
2F	■ 臨床実習生用ワーキングスペース
1F	

1F 外来診療棟フロア案内



A くつろぎ・憩いのコーナー



B 美容室



C 理容室



D ミーベのパン工房



E 休憩コーナー(ウッドデッキ)



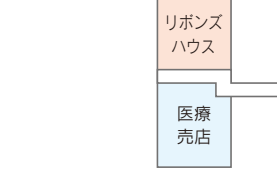
F ドトール



G ローソン



H ATM



I 休憩コーナー



J 総合サポートセンター



- ① 初診受付 ② 会計受付 ③ 入院受付 ⑤ 診断書・放射線画像受付
- ⑥ 支払窓口 ⑦ がん相談支援センター・小児トータルケアセンター
- ⑧ 診療費・自動支払機 ⑨ 院外処方箋案内 ⑩ 持参薬受付

敷地及び建物面積

Campus and Buildings

大学院医学系研究科・医学部

敷地面積／51,143㎡ 建物面積／33,215㎡ (令和8年5月1日現在)

名称	構造	面積(㎡)	建築年月日
先端医科学教育研究棟(基礎医学校舎)	RC-5	9,139	昭和45.12.15
多用途棟	S-1	288	昭和45.12.15
変電室	S-1	150	昭和45.12.15
医学系サークル棟	S-1	389	昭和46. 3.31
総合医学教育棟	RC-2	2,066	昭和48. 4.30
探索医学研究棟	RC-3	3,229	昭和49. 8.31
乾燥室	B-1	41	昭和50. 2.28
病態医科学研究棟	SRC-9	9,804	昭和50.12.25
臨床講義室	R-2	621	昭和55. 3.31
看護学科棟	SRC-6	7,056	平成12.11.16
医療技術棟	S-1	157	平成15
渡り廊下	—	186	—
その他	—	89	—
計		33,215	

医学部附属病院

敷地面積／68,593㎡ 建物面積／84,515㎡ (令和8年5月1日現在)

名称	構造	面積(㎡)	建築年月日
看護師宿舎	RC-4	1,323	昭和50. 7.26
臨床研究開発センター	S-2	224	平成21. 7. 6
保育園(別棟含む)	W-2(S-1)	637	令和 4. 3.29
エネルギーセンター	R-3	2,481	平成22.12.28
病棟・診療棟	SRC-12	40,650	平成23. 6.30
外来・診療棟	RC-5	28,361	平成26.12
感染症危機管理センター	S-2	195	令和 3.10.29
ハーモニーハウス	W-1	113	平成26
管理施設	S-2	1,296	—
立体駐車場(2箇所)	—	7,062	—
みらい棟	S-4	1,975	令和 7
その他	—	198	—
計		84,515	

【医学部その他建物】(125)車庫、(127)危険物倉庫、(130)ポンプ庫

【病院その他建物】井水プラント内3棟、渡り廊下棟、(303)バス待合室、(298)倉庫棟

建物配置図

Campus Map



構内全体図

所在地・アクセス

Location and Access

三重大学大学院 医学系研究科・医学部
<https://www.medic.mie-u.ac.jp>



三重大学医学部 看護学科
<https://www.medic.mie-u.ac.jp/nur/>

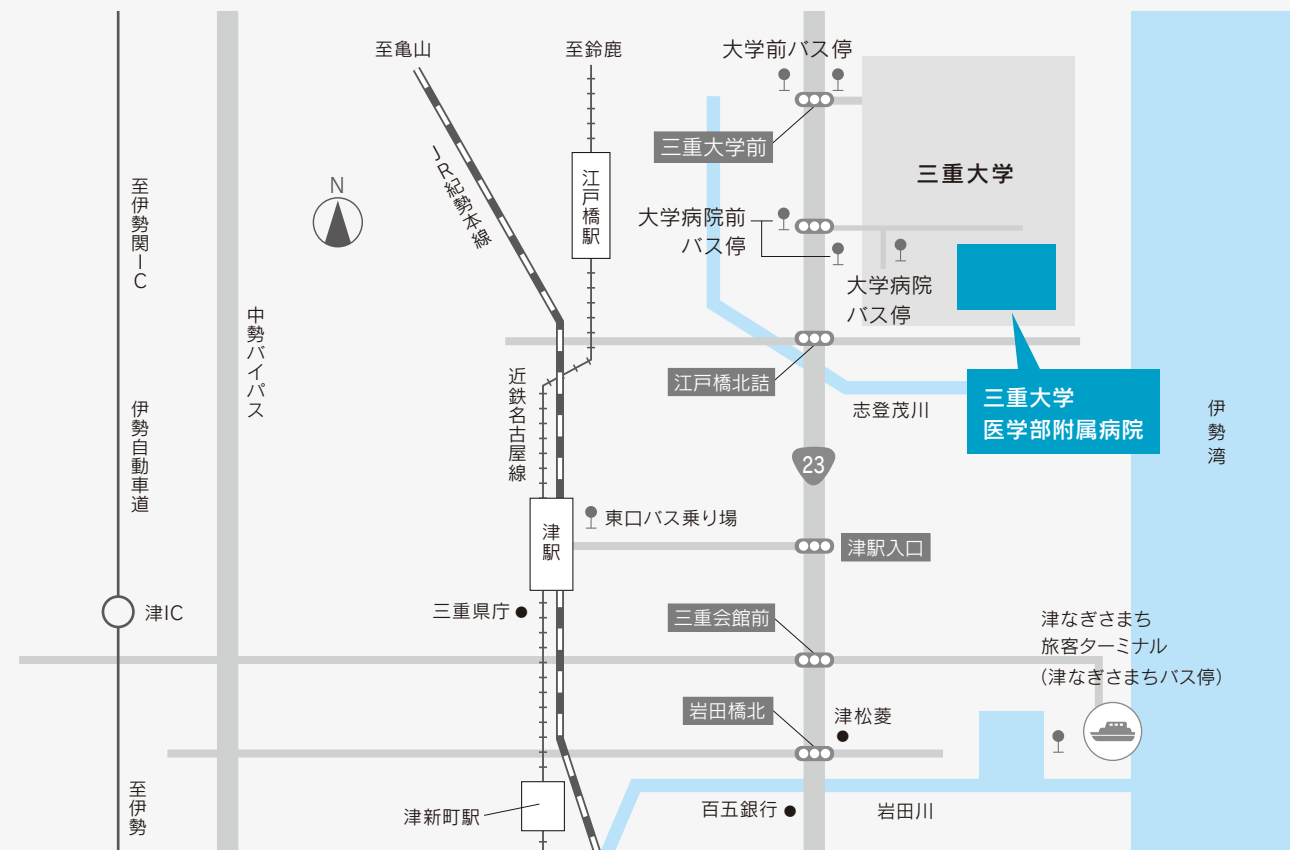


三重大学医学部附属病院
<https://www.hosp.mie-u.ac.jp>



所在地・連絡先 〒514-8507 三重県津市江戸橋二丁目174番地 TEL 059-232-1111

[周辺案内図・交通のご案内]



近鉄電車「急行」で

名古屋より	近鉄名古屋駅	約60分	江戸橋駅	徒歩 約15分
京都・大阪より	伊勢中川駅	約15分		

近鉄電車「特急」で

名古屋より	近鉄名古屋駅	約50分		
大阪より	大阪難波駅	約90分		
京都より	京都駅	約110分		

JR「快速みえ」で

名古屋より	JR名古屋駅	約50分		
-------	--------	------	--	--

三重大学

近鉄・JR「津駅」から

- 1) 津駅東口バスのりば「4番」から三重交通バスで、「大学病院」(93系統)、「白塚駅」(06系統) 行きの一部で、「大学病院」下車
- 2) 津駅東口バスのりば「4番」から三重交通バスで、「白塚駅」(06系統)、「千里駅」(40系統)、「三重病院」(51系統)、「棕本(むくもと)」(52系統)、「豊が丘」(52系統)、「サイエンスシティ」(52系統)、「三行(みゆき)」(53系統)、「高田高校前」(56系統) 行きて、「大学病院前」下車
- 3) 津駅からタクシーで約10分。

近鉄「江戸橋駅」から

徒歩で約15分(江戸橋駅にはタクシー乗り場はありません)。

中部国際空港(セントレア)から

- 津エアポートライン(船)で津なぎさまちへ40分
- 1) 「津なぎさまち」から三重交通バスで「津駅前」まで約15分
 - 2) 「津なぎさまち」からタクシーで三重大学まで約15分

Photo Gallery 2026

| 三重大学病院 フォトギャラリー |



待合



エントランス



スタッフステーション



小児外来



みらい棟



即時適応放射線治療装置



半導体PET/CT装置



ドクターヘリ



手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」



病棟



みえブルーライン

国立大学法人 三重大学

大学院医学系研究科・医学部 医学部附属病院

概要(令和8年度/2026)

発行日/2026年8月

発行者/国立大学法人 三重大学

大学院医学系研究科・医学部 医学部附属病院

〒514-8507 三重県津市江戸橋二丁目174番地